

旧広野家住宅の工事が進行中です！

教育委員会生涯学習課 ☎251268

鳥羽四丁目に所在する国の登録有形文化財である旧広野家住宅の修繕工事が昨年の11月から行われています。

広野家は「かどや（角屋）」と呼ばれる鳥羽随一の財産家で、江戸時代は庄屋の中でも代表格である大庄屋を務めていました。代々「藤右衛門」を襲名し、鳥羽の土地の多くを所有し、財力もあつたことから、鳥羽城内には藤右衛門を通す間があつたともいわれています。

江戸後期に六代目が「三徳堂」という薬舗を創業し、明治になって八代目広野藤右衛門は「括囊舎」という名前で営業するようになり、戦前まで続き、まさに鳥羽を代表する旧家でした。

修繕工事では従来から使用されている古材をできるだけ残し、傷んだ部材や瓦を新しい部材に取り替えています。また、建物が周囲の道路より低くなつており、雨水の流入を防ぐため、建物全体を30cm



明治時代の旧広野家住宅



現在工事中の旧広野家住宅

ほどかさ上げしました。

建物の外観は明治に撮影された古写真に合わせて復元し、薬屋を営んでいたため、軒下に薬看板を再現して並べます。内部は、後世に設置された壁やトイレを取り除いて、昔の薬屋の店舗を再現します。

主屋の工事は夏ごろに終了し、お披露目会を開催します。その後、残りの土蔵と公衆トイレの工事を行い、平成25年

4月に正式にオープンする予定です。

施設は、広野家の歴史を紹介する展示のほか、一部の部屋を催しなどに活用し、土蔵を展示ギャラリーとして利用できるように検討中です。

他地域では、このような歴史的建造物を活かしたまちづくりが進んでいます。旧広野家住宅も、地元のまちづくりの核として期待されます。

東京奮闘記！

vol.1



市では、今年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室 ☎251101

東京駐在ははじめました

みなさん、こんにちは。東京駐在員の山下憲一です。東京へ派遣になってから、早いもので2か月が経過しました。

鳥羽で生まれ育った私にとって、東京での生活は初めてのことばかりで、通勤電車などでは人の多さに圧倒されることもありましたが、徐々に慣れてきました。

わたしが席を置く(財)日本離島センターは、離島振興に関する調査・研究や政策提言などの業務を行っています。事務所は永田町にあり、国会議事堂を中心に、首相官邸や諸政党本部が立ち並び、霞が関とともに日本の政治の中枢機能が密集するエリアです。

現在は、離島振興の仕事に携わりながら、鳥羽市の営業マンとして、パンフレット類を鞆に詰めて、都内各所を巡っています。

いろいろなかたとお話しさせていただく中で、まず感じたことは、「鳥羽」という地名を知らないかたが圧倒的に多いということ。特に若い世代は、そのような傾向が多く見られます。

首都圏には、全国各地からたくさんの方が集まり、溢れ返っています。そのような中で、いかに首都圏のみなさんに「鳥羽」を知っていただくかを、情報収集しながら、効果的なPRの方法を研究しています。

今回から隔月で、私の東京での活動報告はもちろんですが、首都圏で活躍されている鳥羽市出身者の紹介など、レポートしていきます。

